



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

NEWS LETTER

NO.6

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

大阪大学医学部附属病院での学外実習



吹田市にある大阪大学医学部附属病院にて学外実習を行いました。

子どものこころの診療センターは、小児科、神経科・精神科、産科などの医師と心理師が協働して、発達障害の診療や睡眠外来を行っています。具体的には18歳以下の小児・青年を対象としており、疾患についての診断のみならず、精密な評価や指導を行います。

各専門性を生かして、発達や心理面、脳機能の評価、心理教育、精神治療、投薬治療を行っており、必要に応じて

学校や地域との連携を積極的に図っています。

また、発達障害の子どもを養育する上での育児の困難さや母親の不安に対するサポートも行っています。

様々な事例を担当する際、心理師同士で相談しあったり、カンファレンスを行ったりして、一人で解決しようとするのではなく多職種と連携することの重要性を改めて知ることができました。

山本先生、森先生のお話

山本先生によるご講義では、心理師の主な仕事や発達外来の流れ、自閉症診断のために使用する検査道具(ADOS)などに関するお話を聞くことができました。

発達外来では、医師は初回と最終の診察を担当し、心理師は検査とフィードバックを担当しています。このように、はっきりと担当箇所が分かれているため心理師と医師の連携は必須であると感じました。

また、心理師は検査の結果と方針を保護者にフィードバックする際に、困りごとへの対応やアドバイスシートを活用して、環境づくりのコツを伝えていきます。

例えば、遊ぶ場所にマットを置くことで「ここは遊ぶ場所なんだ」と子どもは理解し、安心して遊ぶことができます。そして遊ぶ際のルールを確認することも重要であると学ぶことができました。



ADOS (Autism Diagnostic Observation Schedule) という、自閉症診断のために使用する検査道具を実際に見させていただきました。おもちゃや絵本を通していろいろな働きかけをして、子どもの反応を見たり、子どもからの働きかけを見たりする検査です。例えば、子どもの要求の出し方が言葉であるか、行動であるかなどを観察します。どんな要求をしているのか把握することで親の理解、そして療育にもつながります。しかし、完全に構造化された検査ではないため、検査者の技量が必要であると感じました。

質疑・応答の時間では、心理師及びPSWの森愛実先生にも加わっていただき、様々な質問に丁寧にお答えいただきました。

生活指導をする際は、共有したり、家庭で思い出せたりするようにワークブックを用意して取り組みやすくする工夫をされていました。

また、大学病院で働く心理師は、研究と臨床を共に行うため、研究から得られた経験や知識をもとに先進的な臨床活動が行えるという利点を学ぶことができました。

施設について

検査や療育を行うお部屋を見せていただきました。コンセントにカバーをつけるなどして、子どもが気になりそうなものをできるだけ排除しているシンプルなお部屋でした。室内の床が少し柔らかくなっており、子どもへの配慮であると感じました。

遊びの中で他者への要求や言葉の繰り返し、ごっこ遊びの練習をすることで子どもの発達を促して、社会性を育てています。



また、親子で家庭でも取り組めるように説明をしながら実施したり、ステップシートを用いて保護者の方と共有しながら、決めた目標を達成できているか毎回評価をしたりしています。

作成：本坊
写真撮影：竹内

大変お忙しい中、ご講義いただきました。ご所属の大阪大学医学部附属病院の山本知加先生、森愛実先生に心より感謝申し上げます。



編集後記

2023年8月4日(金)